

子どもは地域の宝

～活動から12年目、「地域で子育てを楽しむ会」のわくわく土曜日～



10月最後の土曜日、厳原のまちなかは、ユニークな仮装に身を包んだ子ども達の姿でにぎわいました。今年で8回目を迎えた『ハロウィンイベント』の主催は、厳原を拠点に活動するボランティアグループ「地域で子育てを楽しむ会」。

今回の『対馬で生きる 対馬をつなぐ』は、子どもの体験活動を通じ、地域の絆を深めてきた「地域で子育てを楽しむ会」の取り組みをご紹介します。

家庭ではなかなか体験できないプログラムもいっぱい。

子どものエネルギーを出し合い、認め合い、感動を共有することが、未来を創る子ども達の道しるべになることを願います。

スタッフ募集中。ぜひ私達の仲間に入ってください。素敵な出会いをお待ちしています。

対馬が大好き。毎回子ども達から学ぶことがあり楽しみです。

本物(命の輝き)の場でありたい。

大西 直祥さん

安田 親男さん

渡辺 久美子さん

吉田 千鶴代さん

日高 幸子さん

鎌本 妙子さん

子ども達に、見守ってくれている大人がいるということ、肌で感じてほしい。

会を支えるスタッフのみなさん

●●●● 世話人の吉田 千鶴代さんに聞きました ●●●●

“してあげよう”ではなく“大人も一緒に楽しもう”

「地域で子育てを楽しむ会」は、学校週5日制が施行され、土曜日が完全に休みになったのを機に「子ども達に楽しい活動や体験の場を提供したい」と有志が集まり結成されました。ボランティアスタッフは、元教員や保育士・住職に牧師・主婦と様々ですが「子どもが好きで一緒に楽しみたい。子どもの居場所を作りたい」という思いは同じ。平成14年9月に始まった活動も、今年で12年目を迎えました。無理をせず、出来る人が出来る時に参加し、そして何より『大人も一緒に楽しもう!』という、この会ならではの姿勢もよかったですと思います。



当初の会場は蔵原小学校



お寺の空き地にいも畑をつくったことも（寿福院）

ビッグイベントになりました。子どもの本当の姿は、遊びの中にあると感じます。一人ひとりの良いところを見つけ誉めてあげたいと思うのです。

8月を除く毎月4回の活動

始めは絵本の読み聞かせや絵画・囲碁・将棋・卓球などからスタートしたこの会も、ボランティアの輪が広がったおかげで内容も豊富になりました。今では、料理に落語・もちつき・書道・コンサートなどなど、数えきれない活動プログラムが組まれています。私達も『こんな人がいるよ』と聞きつけると、すぐに出向いて講師をお願いしてきました。

4つの会場で、週替わりというスタイルが多くの方に広まり、チラシを見て足を運んでくれる親子が絶えないのは、本当にうれしいことです。「ハロウィン」と「新春子どもお茶会」は毎年の恒例で、百人以上が参加する

みんなは地域に見守られているんだよ

「挨拶や礼儀を大切に、日本の伝統文化に触れ、本物の体験を届けたい…」その思いは、これからも私達の大切なテーマです。実は先日、対馬で教員生活をスタートさせた平嶋一臣先生が「書」の体験を通じて、対馬の子ども達とぜひ触れ合いたいと、わざわざ福岡から来てくれました。畳半畳分もある大きな半紙に一人ひとりが、それはそれはダイナミックに筆を運びます。子どもに続いて大人も体験。みんなが何か大きな自信をつけたように感じました。こんな積み重ねが、子ども時代のよき思い出になり『対馬っていいな』と思ってくれるかもしれません。

昔、私達が地域の大人に見守られて育ったように、これまでも、これからも子ども達を地域で見守っていきたいと願います。



「書」の体験

「地域で子育てを楽しむ会」の活動は毎週土曜日。 楽しい活動でみなさんを待っています！

無料だよ！

※開催日は都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

第1土曜日 半井桃水館

絵本の読みきかせや切り絵・折り紙など
楽しく学ぶ



対馬市交流センター 第2土曜日

絵画で遊ぼう
子ども達の個性あふれる作品が誕生！



活動ステージは
全部で4つ

第3土曜日 寿福院

お寺での体験活動
住職さんの言葉が心にしみるひと時



親愛児童センター 第4土曜日

アウトドアをメインに広いフィールドを
活用した活動



詳細は、[対馬市ホームページ](#)⇒[対馬人情報コーナー](#)⇒[地域で子育てを楽しむ会](#)便りにも掲載しています。

利用者の声

本物のボランティア精神が息づいた活動に感謝

孫と活動に参加するようになって2年半ほどが経ちます。特に楽しみなのが、毎回素晴らしい企画で歓迎してくださる「寿福院」での活動です。どの靴もきちんと並べられた姿は見事で、さらに静かな雰囲気の中、精神統一し住職さんの声に耳を傾ける姿は、今の世の中に大切なメッセージを送ってくれているように感じます。「書」の体験も素晴らしかったし、本格的な料理に音楽コンサート、EMだんごで環境に目を向けたりと心に残るものばかりです。

「ハロウィン」は、今や巖原の風物詩になりつつあり、私も仮装した孫たちと町を歩き、韓国の方に「写真を撮らせて」と頼まれたり、いろんな出会いがありました。

一服のお茶と季節のお菓子を味わいながら日本文化に触れる「子どもお茶会」も待ち遠しいですね。スタッフや講師が本物のボランティア精神で子ども達と楽しみながら続けていらっしやるのが、これまでの継続力に繋がったのだと思います。



お孫さん薄本 優ちゃん(5歳)
想くん(2歳)と参加する
加藤 直子さん(豊玉町)

子どもも大人も一緒に楽しもうと、一人ひとりが特技や知恵を持ち寄る「地域で子育てを楽しむ会」。参加する人が、一人でも百人でも思いは変わりません。息の長い活動の秘訣は、この気負いのなさかもしれません。

未来を担う子ども達は“地域の宝”“日本の宝”

私たち社会全体で子ども達の健やかな成長を見守っていきましょう。